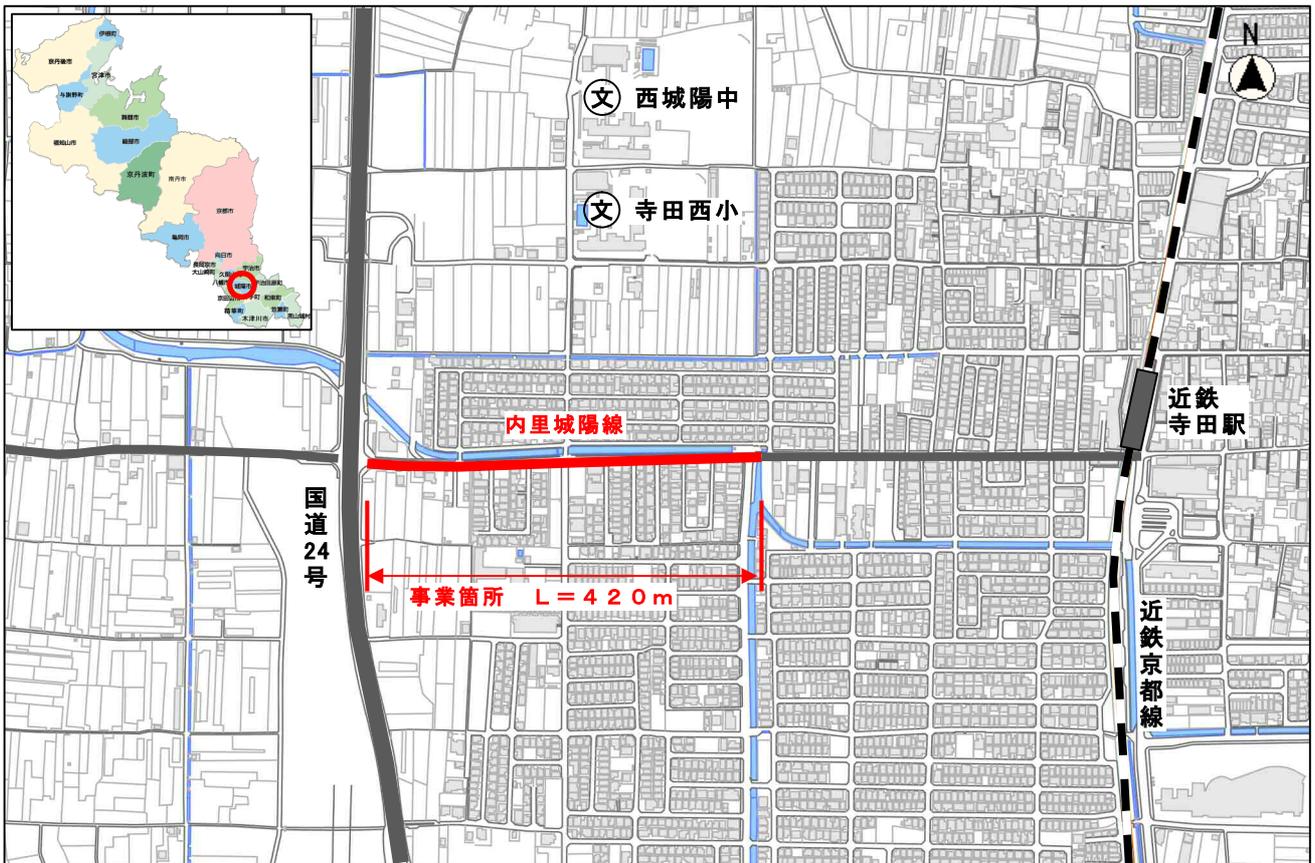


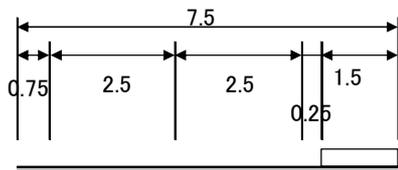
道路事業事前評価調査書

路線・河川等名	一般府道内里城陽線 <small>うちさとじょうよう</small>	事業名	防災・安全交付金事業	補助・単独の別	補助
事業主体	京都府	事業箇所(区間)	城陽市寺田 地内		
事業概要	目的	<p>一般府道内里城陽線は、一般府道交野久御山線（八幡市内里）から主要地方道城陽宇治線（城陽市寺田）を結ぶ一般府道で、第二京阪道路、一般国道24号へのアクセス道路であるとともに、駅や市役所等の公共施設を東西に結ぶ重要な路線である。</p> <p>当該箇所周辺には、日乗降客約9,100人の近鉄寺田駅、商店やスーパー、市役所等の施設が集約されていることから、自動車、自転車及び歩行者交通量が非常に多いが、車道及び歩道が狭く、朝夕には歩行者・自転車が歩道からあふれ、非常に危険な状態となっている。そのため、「通学路交通安全プログラム」の要対策箇所として位置付け、歩道等を整備することにより安全な歩行者・自転車の通行環境を確保するものである。</p>			
	内容	<p>整備延長：L＝ 420m 現況幅員：W＝ 7.5m センターラインなし、歩道：片側簡易歩道 計画幅員：W＝ 5.5(9.5)m 2車線、歩道：片側2.5m 事業費：約2.0億円</p>			
	上位計画等	<p>明日の京都（中期計画） 社会資本総合整備計画 通学路交通安全プログラム（城陽市）</p>			
	スケジュール	<p>着手年度：平成29年度 完成目標：平成31年度</p>			
事業の必要性	事業を巡る社会経済情勢及び地元情勢等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自動車交通量 4,622台/日（H22） ○ 自転車交通量 890台/日（H22） ○ 歩行者交通量 800人/日（H22） ○ 現況の歩道は幅員が狭く、歩行者や自転車が歩道からはみ出して通行しており、安全で円滑な通行ができない状況。 ○ 寺田西小学校の通学路となっていることから、通学路交通安全プログラムの要対策箇所に位置付けられており、早期の歩道整備が求められている。 			
事業の有効性	事業の効果及び費用対便益等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 歩道及び車道の拡幅により、通学路における歩行者・自転車の安全の確保及び円滑な自動車交通を確保する。 ○ バリアフリー構造の歩道とし、誰もが安心・安全で円滑に移動できる歩行空間を確保する。 			
事業の効率性等	コスト縮減代替案立案等の可能性及び良好な環境形成・保全	<ul style="list-style-type: none"> ○ バリアフリー構造の歩道として整備し、歩行者及び自転車の交通環境が改善される。 ○ 歩道及び車道を拡幅することで、歩行者・自転車及び自動車双方の交通環境が改善される。 ○ 二次製品の使用を促進しコスト縮減を図る。 			
総合評価	<p>本事業は、通学路における児童及び歩行者・自転車の安全性の向上を図るために、新規着手の必要がある。</p>				

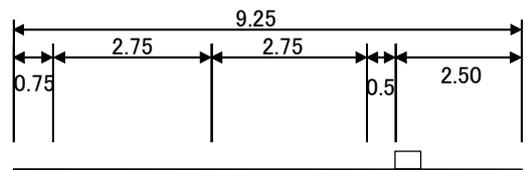
【位置図】



【現況横断図】(単位m)



【計画横断図】(単位m)



【現況写真】



道路の幅員が狭く、交通が錯綜している。



通学路であるが、一部で歩道がなく、歩行者の安全が確保できていない。

わ
『環』の公共事業構想ガイドライン評価シート

		作成年月日	平成29年 4月 28日				
		作成部署	建設交通部道路管理課				
事業名	一般府道 内里城陽線 防災・安全交付金事業		地区名	京都府城陽市寺田 地内			
概算事業費	約2.0億円		事業期間	平成29年度～平成31年度			
事業概要	歩道整備 L=420m W=5.5(9.5)m						
目指すべき環境像	内里城陽線は、八幡市内里から城陽市寺田を結び一般府道であり、駅や市役所等公共施設を東西に結び重要な路線である。本箇所周辺は、近鉄寺田駅等の施設があることから、自動車・自転車及び歩行者が非常に多いが、車道及び歩道が狭く危険な状態となっているため、通学路交通安全プログラムの要対策箇所として位置付け、歩道等を整備し、安全を確保するものである。						
関連する公共事業							
評価項目		施工地の環境特性と目標		環境配慮・環境創造のための措置内容	環境評価		
	主要な評価の視点	選定要否					
地球環境・自然環境	地球温暖化(CO ₂ 排出量等)	○	道路幅員が狭く、自動車交通に支障が生じており、CO ₂ 排出量の低減を図る必要がある。	道路拡幅により、自動車の円滑な交通を確保し、CO ₂ 排出量の低減を図る。	4		
	地形・地質						
	物質循環(土砂移動)						
	野生生物・絶滅危惧種						
	生態系						
	その他						
生活環境	ユニバーサルデザイン	○	当該箇所は通学路であり、また商業施設や鉄道駅に近接しているが、歩道が狭小であり、安全な歩行空間を確保する必要がある。	バリアフリー構造の歩道を設置し、誰もが安全に通行できる歩行空間を整備する。	5		
	水環境・水循環						
	大気環境						
	土壌・地盤環境						
	騒音・振動	○			事業の実施により施工中騒音・振動の発生が予測されるため、発生を抑制する。	早朝や夜間の工事を極力避けるとともに低振動、低騒音の建設機械を使用する。	3
	廃棄物・リサイクル						
	化学物質・粉じん等						
	電磁波・電波・日照						
その他							
地域個性・文化環境	景観		該当なし	該当なし			
	里山の保全						
	地域の文化資産						
	伝統的行祭事						
	地域住民との協働						
	その他						
外部評価							